



北関東・甲信越地方ブロックエイズ対策促進事業における調査研究

研究分担者 茂呂 寛

新潟大学医歯学総合病院 感染管理部 准教授

研究要旨

HIV感染症自体の治療が洗練されていく一方、長期療養の課題に対し、実効性を持った対応求められている。ブロック内では、こうした課題の情報共有に加え、人材の確保と育成を進め、診療体制の堅持と発展を図る必要がある。北関東甲信越地域では、中核拠点病院協議会や症例検討会等の機会により課題の共有を図るとともに、患者数が比較的少ない点を鑑み、薬害被害者の情報共有を目的とした新たな枠組みを設け、個々の症例への精緻な対応を促す取り組みを開始した。

A. 研究目的

北関東・甲信越ブロック内において、HIV/AIDS診療に必要とされる基礎的な知識の普及を図り、医療水準の向上に結び付ける。さらに、医療機関同士の連携を強めると共に、長期療養時代を見据え、拠点病院以外における症例の受け入れ体制を整備する。

B. 研究方法

1) HIV/エイズ症例の動向と診療実態の把握

北関東・甲信越ブロック内におけるHIV/エイズ診療の実情を把握する目的で、エイズ治療拠点病院の38施設を対象にアンケート調査を実施した。調査期間は2022年1月1日から12月31日までの1年間とし、調査項目としてはHIV感染者/エイズ患者の受診状況について、受診者数（HIV感染者及びエイズ患者実数）、新規受診者数、血液製剤由来患者数、性別、病期、C型肝炎合併の患者数と治療の状況を対象とした。

2) HIV/エイズ診療体制の均てん化への取り組み

中核拠点病院連絡協議会、医療従事者を対象とした講演会、研修会、検討会を企画・開催し、人的交流と共に経験と知識の共有を図った。さらに、各都県で中核拠点病院を中心にHIV診療水準の向上を目的とした啓発及び教育活動を進めた。

3) HIV基礎知識の啓発活動

一般層を対象とし、HIV感染症に関する最新知識の普及と早期発見に向けたスクリーニング検査の促進を目的に、各自治体との協力の下で、地域毎の特性を活かした啓発活動を企画した。

(倫理面への配慮)

アンケート調査の実施、臨床研究、講演会や検討会での症例提示にあたり、匿名化を徹底するなど、個人情報保護に十分な配慮を行った。

C. 研究結果

1) HIV/エイズ症例の動向と診療実態

エイズ治療拠点病院38施設に対するアンケートの回答は全施設より得られ、回答率は100%であった。この地域における受診者数は1,227例、薬害被害者は28例であった。これは、一般感染者および薬害被害者ともに、概算で関東甲信越ブロック全体の1/10の規模に相当する。全症例中、新規症例は97例で、抗ウイルス薬を服用中の患者は1198例(97.6%)、血液透析中の患者は9例(0.7%)であった。

2) 会議・講習会・研修会の開催状況

● 北関東甲信越中核拠点病院協議会

9月15日にリモート形式での開催となった。例年、新潟市内で開催していたが、コロナ禍を受け、今年度もリモート会議の形式を継続した。中核拠点病院の立場から、各県の現状と課題を把握する貴重

な機会となった。合わせて、北関東甲信越地域における薬害被害者の情報共有および支援体制構築を目的に、北関東甲信越 HIV 感染者 包括支援連携 (NK2-CHAIN) の枠組み設立が承認された。

● 令和5年度関東・甲信越ブロック都県・エイズ治療拠点病院等連絡会議

12月8日に東京都都内に会場を設営し、エイズ拠点病院長（管理・運営責任者）及び診療責任者、エイズ診療に積極的に取り組んでいる医療機関の関係者、都県衛生主管部（局）長及びエイズ対策担当者を対象とした会議であり、現地とWEB配信のハイブリッド形式とした。内容は、1) 新規薬剤とPrEPの現状、2) 国内外のエイズ対策に関する最近の話題、3) 肝細胞がんに対する重粒子線治療、4) ブロック内の状況と課題について、5) 患者からの要望、の6題であった。

● 第23回 北関東・甲信越HIV感染症症例検討会

2024年1月26日、例年は群馬県高崎市で開催していたが、コロナ禍を受け昨年度に続きWebでの開催とした。一般演題では5演題の発表があった。各都道府県から1演題ずつ、また若手医師や看護師による発表を含め、意義深い内容となった。

発表演題の動画については専用のWebサイトを設け、発表者の同意を得たうえで会議の参加対象者に限り閲覧可能な形とした。

● その他、職種別の連絡会議など

看護師の実務担当者による情報共有を目的に、北関東甲信越エイズ治療ブロック/中核拠点病院 看護担当者会議をWeb上で開催した。その他にも、各職種でカウンセラーについては関東甲信越ブロックカウンセラー連絡会議を、ソーシャルワーカーについては、北関東・甲信越地区エイズ治療拠点病院ソーシャルワーカー連絡会議を、薬剤師については北関東・甲信越HIV/AIDS薬剤師連絡会議を、それぞれ開催した。

3) 地域における活動

コロナ禍以前は、新潟県内の拠点病院以外の医療機関を対象に、希望があった施設に医師、コーディネーターナースが出向く形で、出張研修を6-10施設/年程度行ってきたが、今年度はWEBでの開催形式をとり、事前に希望のあった医療機関に対して、医師と看護師の講演を1セットとし、同内容の

ものを4回配信した。今回は計5施設より視聴があり、アンケートの結果においても、講演内容の受け入れは良好であった。これらの施設におけるHIV感染症の知識定着により、HIV感染症に対する意識の変化と、今後の受け入れが円滑に進む効果が期待できる。

D. 考察

ブロック内の現状把握に向けて、従来は関東甲信越全域を対象にアンケート調査を行ってきたが、類似の調査との重複がみられ、また症例数の多い医療機関にとっては負担が大きいことを踏まえ、今年度より首都圏と北関東甲信越で調査内容を分けることとした。北関東甲信越地域では、一般感染者数、薬害被害者数ともに、患者数が限られていることから、一例一例への丁寧な対応が可能となっており、アンケート調査も従来と同様の内容を継続の方針としたが、100%の回収率を達成することができた。これは、従来より構築してきた病院間、地域間の密接な関係性も大いに寄与しているものと推定される。

HIV感染症の長期療養に伴う課題として、C型肝炎の治療、歯科診療体制と透析医療体制の確立、生活習慣病のコントロール、メンタルヘルスの管理、整形外科領域とリハビリテーションの充実、悪性疾患のスクリーニング、などの対応が求められており、こうした多様な需要に対応可能な、実効性のある診療体制の構築はブロック内における重要な課題である。当院はブロック拠点病院の立場として、これまで新潟県という一地方でこうした課題にどう対応していきべきか取り組んできた。既存の枠組みである「新潟県医療関連感染制御コンソーシアム(CHAIN)」のHIV領域への展開も、その成果の一つに挙げられる。今年度はこれまでの経験を基盤として、北関東・甲信越地域における枠組みとして、「北関東甲信越 HIV 感染者 包括支援連携」、略称NK2-CHAIN (North Kanto-Koshinetsu Region Collaboration for HIV Assistance and Integrated Network) を、北関東・甲信越の中核拠点病院協議会での承認を経て設立した。NK2-CHAINの事業により、ブロック拠点病院である当院が情報を収集、整理し、情報共有を図ることで、各地域における円滑な診療に結びつくことを目標に、そのあり方は柔軟に展開していきたいと考えている。

診療体制を維持、発展させていくためには、人材の確保と育成が不可欠である。ブロック内で症例検

討会などの機会を企画し、若い世代が研鑽を積める場を用意すると共に、各職種間での垣根を超えた人的交流の場としても活用していく方針が考えられた。HIV診療を担う人材が世代交代を進める中で、原告団及び当事者団体の方々から、直接お話いただく機会を設け、救済医療の原点を再確認する機会を確保していくことも重要な課題である。また、人材の確保に向けては、教育機関としての立場から、感染症内科を志望した若手医師を対象に、感染症の一つの必須分野としてHIV感染症診療の経験を積む機会を確保し、HIV感染症に対する十分な理解と経験を持つ感染症専門医の育成を進めている。さらに、こうした医師が大学医局からの人事で県内各医療圏に出張し、現地で活躍するシステムを構築できれば、人材の継続的な確保が進むものと期待される。

E. 結論

コロナ禍を受け、本研究の活動内容も大きな影響を受けたが、一方で感染症に対する意識の高まりや、Web会議の浸透などの側面もあり、こうした経験の蓄積が、HIV診療における貴重な財産となるよう、柔軟な対応が必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Dynamics of iron metabolism in patients with bloodstream infections: a time-course clinical study
Hiroshi Moro, Yuuki Bamba, Kei Nagano, Mariko Hakamata, Hideyuki Ogata, Satoshi Shibata, Hiromi Cho, Nobumasa Aoki, Mizuho Sato, Yasuyoshi Ohshima ... Scientific Reports 13(1) 2023

2. 学会発表

院内肺炎における empiric therapy の最適化について
茂呂寛
第97回日本感染症学会総会 2023年4月28日

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし